

豊かな市民文化が花開く日

地域にしっかりと根を下ろした公共劇場へ成長する——二年前、キラリふじみはあらためてそのことを目標に計画を立てました。そしてその目標達成に必要となる新しいプログラムの枠組みと、芸術監督と五人のアソシエイト・アーティストによる創造の体制を整え、再スタートを切りました。この春、その五カ年計画の折り返し地点となるシーズンが開幕します。

新たな計画の中で、中心的な位置を占めるプログラムに「レパトリーの創造と上演」があります。市民の文化的な財産となるような舞台作品を創作し、それを継続的に上演するこのプログラムでは、過去二年で、すでに多くの優れた作品を蓄積することができたと自負しています。

今シーズンはその中から、田上豊作・演出の『mother-river homing』と、矢野誠作曲・音楽監督の『地球のことづて』を再演します。新作としては、白神ももこ構成・振付のアンデルセン童話を原作とするダンス作品を創作上演します。二期目に入る「私の子供=舞踊団」は、田中泯構成・演出のパフォーマンスを市内各所で展開します。

そして多田淳之介芸術監督が二年がかりで取り組む市民劇『ふじみものがたり(仮)』の創作がいよいよ始まります。

今シーズン、これまで以上に力を注ぐのは、市民が舞台芸術や地域の文化に出会い、またそれを担う人材と交流し、共同作業をする、私たちが「扉」や「広場」と名づけたプログラムです。サーカスと市場が融合した『サーカス・バザール』、アーティストと市民が対話を繰りひろげる『キラリふじみのアトリエ』、劇場内や市内の小中学校に出かけておこなう演劇やダンスの『ワークショップ』、市民参加の『リーディング』など、創意工夫を凝らしたプログラムが満載の一年となります。

地域に根を張り、富士見市に豊かな市民文化を花開かせようと奮闘努力するキラリふじみの活動にご注目ください。多くの市民の方々のご来場とご参加をお待ちしています。

富士見市民文化会館 キラリ☆ふじみ

館長 松井憲太郎

夢をかなえる場所

「夢は何ですか？」ワークショップなどで子どもたちと過ごす時、時折ドキッとすることを聞かれます。大人になるとなかなか子どものように夢を見ることは難しくなりますが、「夢」とは「好き」や「やりたい」のこと、劇場は誰にでも夢を見せてくれる場所だと思っています。

キラリふじみは色々な人たちの夢が託されて生まれた場所です。建設準備段階では2000人収容の大ホールだけの劇場にするか、現在の形である、ホールは1000人以下で市民の芸術活動の場を備えた劇場にするかという二案があったそうです。これまでも芸術監督制度や自主事業のクオリティが全国から注目されていますが、実はキラリふじみのユニークなところは、アーティストによる創作や上演だけではなく、展示室やスタジオ利用など、市民の芸術活動が活発なところだと思っています。色々なものを観たい、発表の場が欲しい、芸術って良くわからないけど身体を動かすのは好き、歌を歌うのが好き、踊るのが好き、そういえば子どもの頃は絵を描くのが好きだった、みんなで何かをするのが好き、地域の為に何かしたい、子どもたちの為になにかしたい、キラリふじみは一人ひとりの「好き」や「やりたい」を叶える場所として生まれました。

今はあらためて、そのユニークなところと劇場の活動、作品をどう繋げていくかということを考えています。アーティストや劇場が持つ作品を「創る力」と、人々の色々な「夢」が芸術で繋がる、そんなアートステーションとしての未来劇場、それが今の自分の夢です。子どもも大人も、是非劇場に夢を見に来て下さい。

富士見市民文化会館 キラリ☆ふじみ

芸術監督 多田淳之介